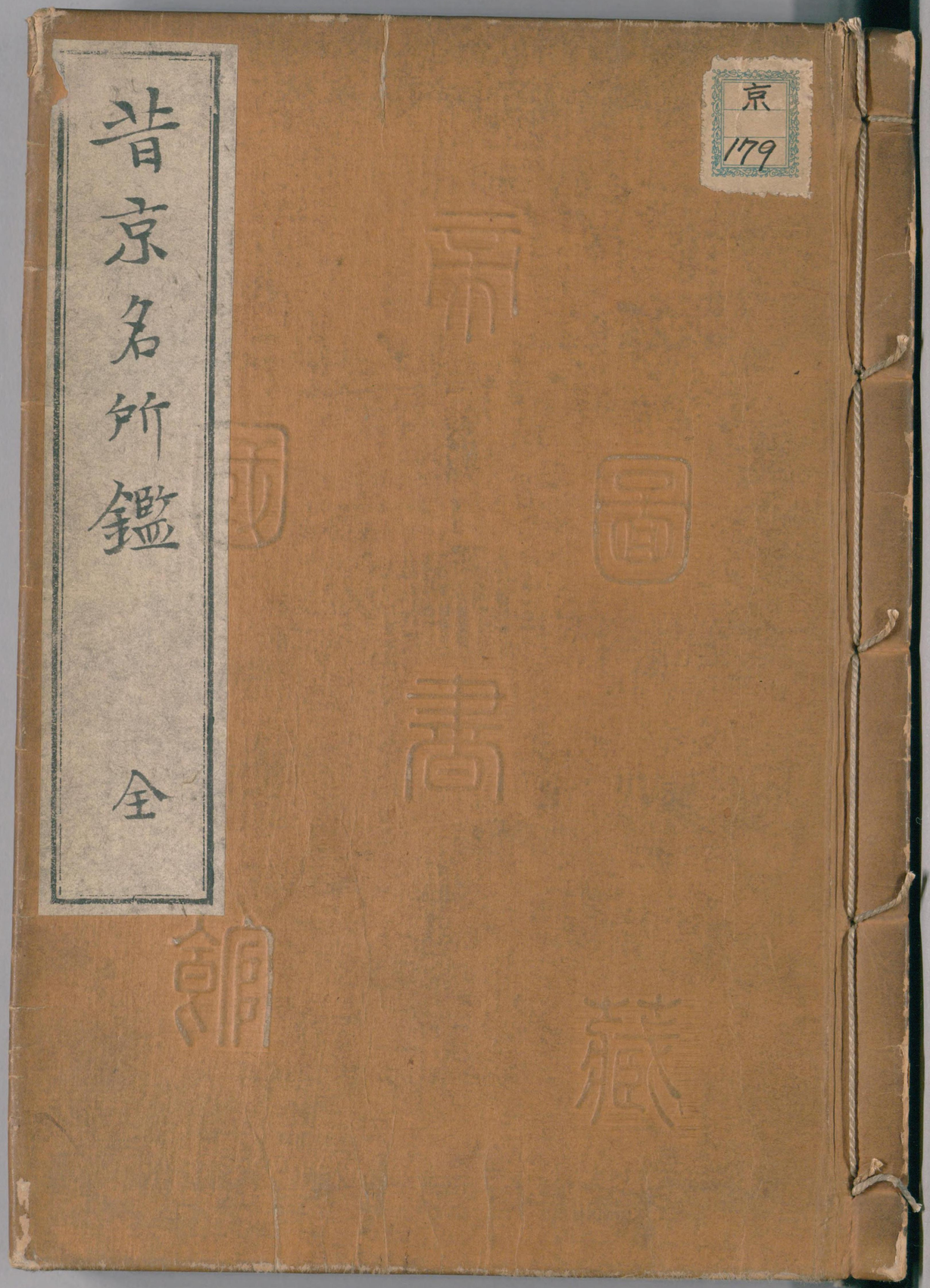


国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

京
179

鉛毒園京米
一七九号
架
函
欄
類

年中寶

昔京名所鑑

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

NE1599

昔京名所鑑 巻一 目録

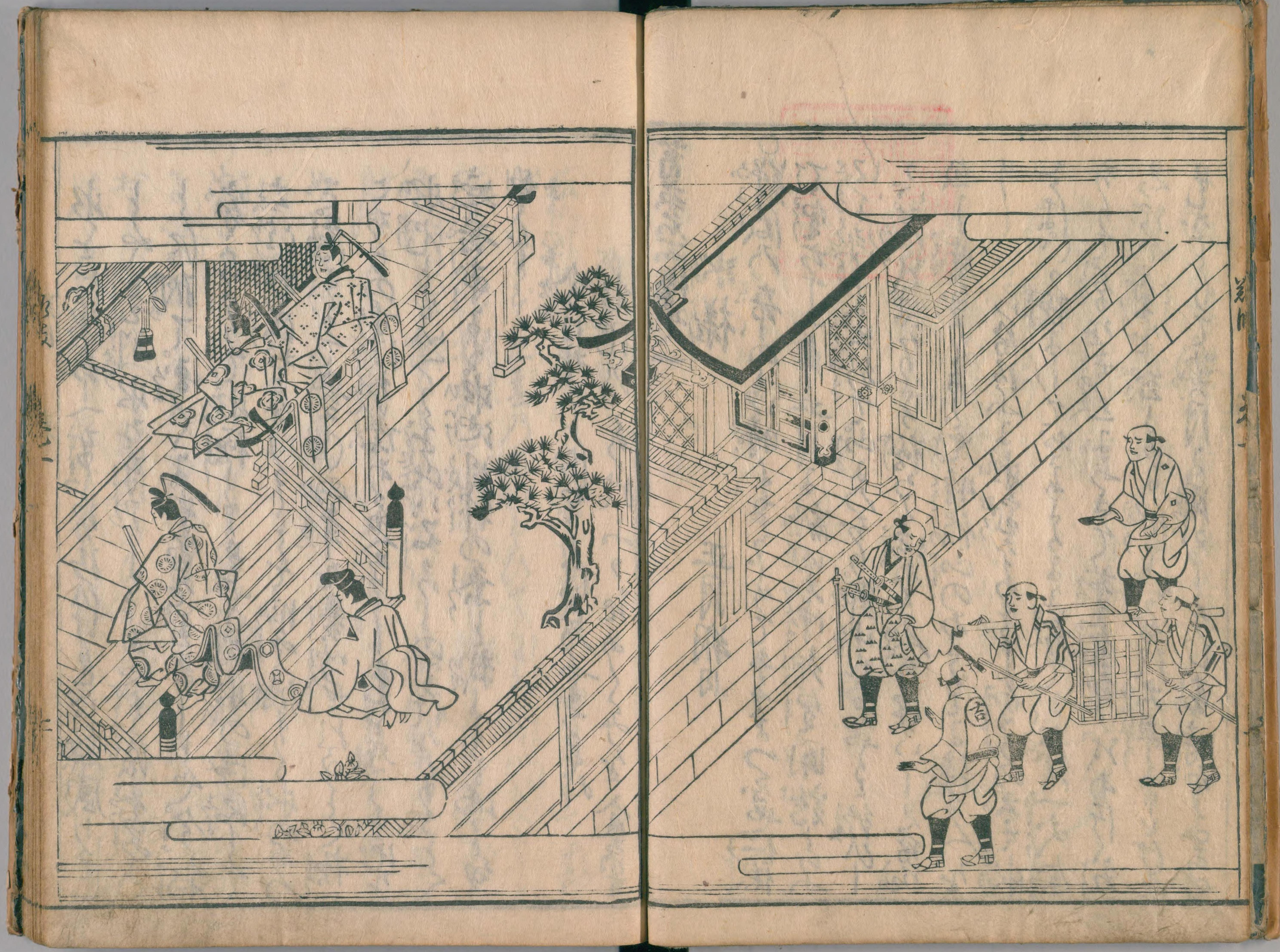
氷様 并 若水
正月七日 門松
元旦 并 歳首作業始
住吉明神御供 并 内侍所御供 附 弥生吉辰
聖徳太子御精進供
餅鏡開事
速水 并 胡思抜被魔ら
庸蘇白散
道祖神祭事

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

氷様

正月朔日

○祥彼乃帝の治時ちかぞめてまつるも仁徳天皇三年卯月の事にて今千二年五月なり。郡国吉中毫厚雹。麻穀ともに出ずて山よりおりくる人を打ころしぬ。ほうりころされぬ。ほうりころされぬ。ほうりころされ



国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

水を。仁徳帝へ奉りたまひけるに。紫威あるとも
とも。其幻水を。なつまらじとの
とに。驚て。ふくるゝ。水家を。動
家よりくるゝて。水極とゝ
ち法秘法おこなひ
さ。爲さるゝて。豊年を奏せ
こゝろのすゝき除あるゆへ
水汲もの
延喜まで。水汲風祢の
やうで
年中公事歌合
今日まで
水汲乃ふれ

○降若水

○玄辛酒甘菜のつゝみ井れ
問くまで。立春乃日もと
てまつるしゞ。初領
乃私を傳くとよ
みとむるよろこひ
めばゝ水とゝぺ

正月と云事

○先ゝの祝月と。正月と
ま誕生まりぬさまゞ。降延の
おとなつゝゆゝよ。改月と
ゆゝよ。降改の多。言を若

ひそよ。ひくくなりて。ぶ月ともの
今ぶ正月ハ雲旦の法にてぞ。その月をうちの夏
乃世の例なると。殿の代の月違ハ世の月今ぶ十二
月よおくる。周の代の月違ハ。この月今ぶ十一月や。
み至を。唐の正月とふ。こゝのゆへなり
門松 年歳竹飾来ゆづえ陽縄のう
○むり素戔嗚尊。高天原へかゝり
巨旦れ来よりうちまひ。
とりそそまつうそ後るいうち
を家をろうばれ。乾坤の
て。巨旦ぐ養乃よ生うち
門松ハいるうそや

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

まつあけてくるよ春の来らんを
まつ歳くれてのどかなれ巨燵を出す業の心ぞ
らしつ雲井をもとむる鳥くもり
乃波よせぬ江のひろさをもつねでこそ
雪をかぶるもちやよそれぞ
うぐひす鳴いを海をゆだてて
なるへし

住吉明神社法楽　并門伝宮神事

○神主大晦日より。神殿へ。出仕して。
別して。一の神殿へ。出仕して。神楽を奏して。
拍子おもしろく。神楽あり。翌月一日より
も。供奉して。別して。一の神殿へ。
供奉して。庖厨男令して。

同朔日

天照大神宮へ。御供。
御門の浄供。
神燈。
神燈。
神燈

住吉の神おはつそのふみ

○むつの橋本こと申事
御切望ニ候ニ付
後年約束ニ而
ハ千金敷の
ニ而ハ無之候。
乞いた年の橋ニ
なりとも
うるめてくれ
橋をうごかしも。ゆへあるや

○正月一日より同十一日まで

永園よろこぶ花乃いろ
もろ春のよをことほぐ
聖徳太子御精進供

同朔日

毎日清精を供ぬ。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

天皇内裏紫宸殿の図

元日まいり。陪膳役をいらる。雪景をめでんよおのづから恒例となる。

さきべ、おなじく開かれ帝の御代々々石清水へ御参詣ありて。三ヶ日の間人参り絶ず。

三ヶ日の内。清涼殿にて。

○雀鬮といひて餅を

[illegible]

雀鬮は餅を

[illegible]

雀鬮は餅を用ゐる。陪膳より献ず。

[illegible]

くねてうつくしゆふ迄春の淋しき時をいふ也
ゆべきそうそうしき時はだ大体のあらまし
餅は。米もち。粉もち。ねりもち。あづきもち。
穂井玉 羊胡粉被麗うつくしき事
○むかし唐土に黄帝といふ聖人ありけり。
ありしが。黄帝の后西陵氏の女を
迎へ玉ふ時。天より三神の使者降りて。
玉の人民をあつめ給へとの勅諚なり。
帝命をおそれ。むかしの人民をあつめ
どくくとぞ集りける。

[illegible]

よ。四月ま。彼服の中
もあまりてうつくしき時。彼服のうつくしき
ありてゆふべよりいる時の的よ。
て中のひとみよりぬきよ。
うつくしきひよ。彼服の矢をとりて
もふ。矢をもやのうちとぢこめ
胡彩ねといひ。ねこ枝
をもぬりそそぐ
町の名也
○唐土稚白教
○むかし二代暎帝の御時の事
おろかなる人。此教一家
を

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

乃めば一里も有の餅の餅屋の茶とぞうめそうの茶
場ざんしよう清涼散よりまして。ほかはなを
やまとにたちまさるものもなし。

所商言
為秀

○物芝居とらのまもの巻
乃女房ごのり波うちぎわの
ぢう田舎のもちつき
ぬし。弁当提重乃うへよ。
みはものさ芳。やちや亜し
か。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

よもつまさる物哉といえどもおろかなる人の口をいとわばいかでか言の葉よ伺う男ありよせてきかんやさまざまとりあつめて書つらねたる小説の中の趣向をぬすみ取て作意をかえ文章をかえ看官の目をくらまさんとするは狡猾の小人にもおよばざる盗賊なり看官よろしくこれを擯斥したまえ

例言

一 この編は小説の体裁にならいて書つらねたる小説の中の趣向をぬすみ取て作意をかえ文章をかえ看官の目をくらまさんとするは狡猾の小人にもおよばざる盗賊なり看官よろしくこれを擯斥したまえ

一 この編は小説の体裁にならいて書つらねたる小説の中の趣向をぬすみ取て作意をかえ文章をかえ看官の目をくらまさんとするは狡猾の小人にもおよばざる盗賊なり看官よろしくこれを擯斥したまえ

一 この編は小説の体裁にならいて書つらねたる小説の中の趣向をぬすみ取て作意をかえ文章をかえ看官の目をくらまさんとするは狡猾の小人にもおよばざる盗賊なり看官よろしくこれを擯斥したまえ

一 この編は小説の体裁にならいて書つらねたる小説の中の趣向をぬすみ取て作意をかえ文章をかえ看官の目をくらまさんとするは狡猾の小人にもおよばざる盗賊なり看官よろしくこれを擯斥したまえ

一 この編は小説の体裁にならいて書つらねたる小説の中の趣向をぬすみ取て作意をかえ文章をかえ看官の目をくらまさんとするは狡猾の小人にもおよばざる盗賊なり看官よろしくこれを擯斥したまえ

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179　　ガラス使用

三代将軍家光公上洛　同七日

住吉御社頭神事

○今日一の神輿、渡御の行事よりて御旅所へ遷座の神事をいとなまる。御輿の門前を一段低く修復仕候様にとの御沙汰にて、柏屋源兵衛の家前より、時ならぬ土もり、土ならしまわる。是は、月おこなひの為なるや。是は、天皇御上洛の為なるや。是は、陽の納まりの為なるや。まるで出来ぬ。

まるや是よりて正月七日よりの乱舞を停められ、御年乃和気を保ち給ふ御祈禱の為なるや。

雲脚よ。出来ぬ。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

五月七日七つ半

弁慶を洗ふ水そそぎ迄いと念ごろなり
御門より八事停車場の名所の数々
とゝへども本より下手の筆のすさみ
あらまほしきも中〳〵仲手よきやうに結べ
内裏のやうにいと〳〵おろそかなることの
まへだいと〳〵名所とゝへども
今のうつゝのまゐるとふいと〳〵
や

こゝひの門芸よる引めもせ
ひくらしやはた
時七草を云事

○七草のよめ菜を美りよーてぞ
食ふとふ三槐

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

七福とうふ神あり。そもよ七膳とる。ちそうをとりて。服あれば。永禄の乱をまぬかれ。命を延ぶるなり。お栄みその時も。唱うるやそあとのいわい

すりちなめりまそ仏乃弄

そそるそそるなしまれを七そそ

太融寺富ころ弁財 卯歳

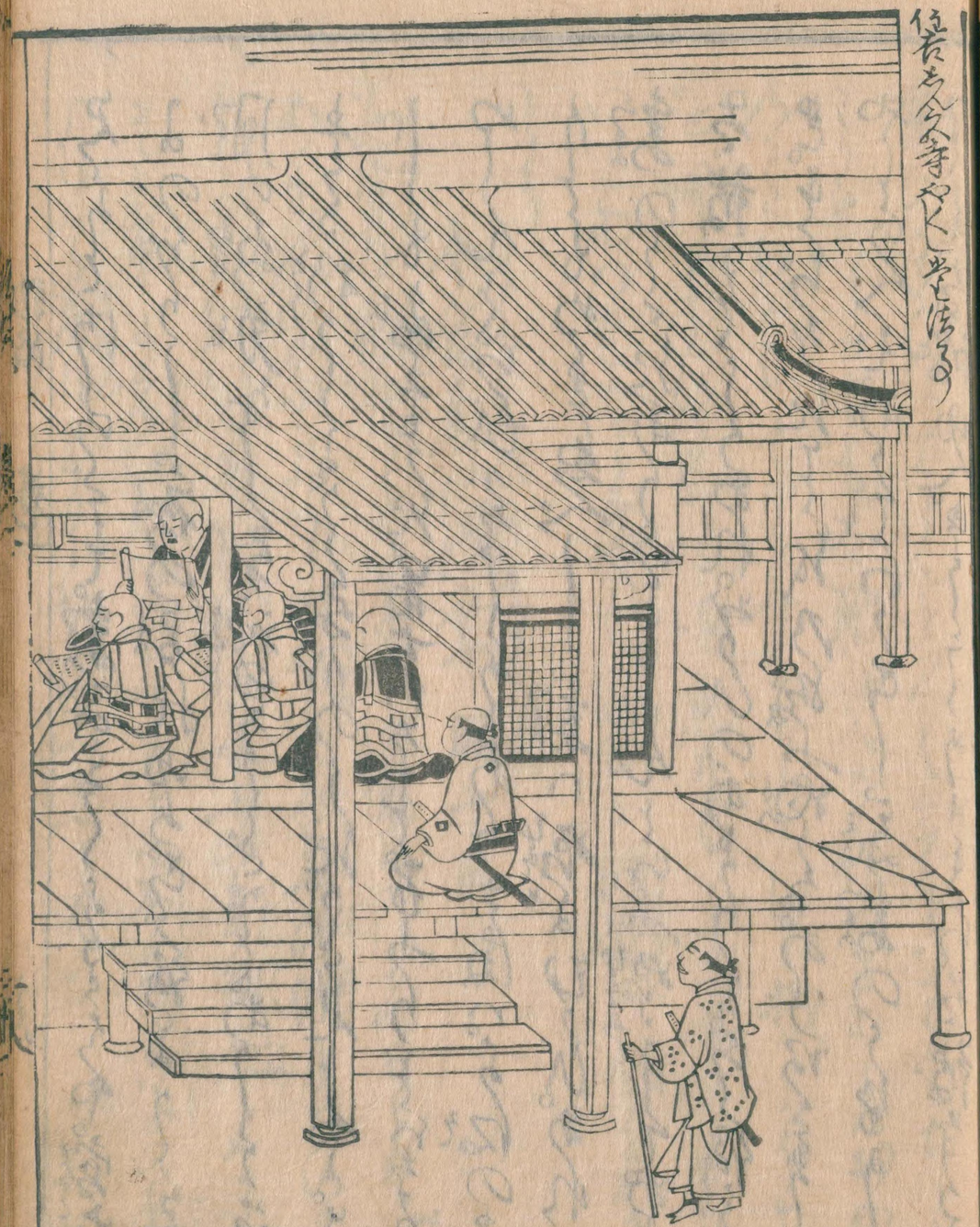
○正月一日より七日まで。俗むかしより降冨の靴あり。太融寺稲荷の時も穀物とく格降冨の俗礼。書ぢまち。七番の冨そ七福乃

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用



住吉公方寺社巡詣の

右勅使のぼりをはじめ。
おのおの家来のものども
おさまり帰るいでたちもおのおの
行列ととのひ清らかなる
前ぶれの
警固ものものしくそうぞうしく
つきそひ清らかなる
おもちの前をかつがるるもの
おのおの清らかにおりひまもなく
もらわぬ時ぞと書ぬいたる
そのおそばを。清らかに
清らかなれめる形

同十日

今宮恵比須祭

○和宮を勧請するゆへ
あきんどの家よろこびの
ことなれバ
とくとくにいそ
おくに
ありて商ひよろ

十一日

○まつのおくのいへよ。ほとゝぎすをしてゐるよ。ほとゝぎすをしてゐるよ。

○

八番めや。むう〳〵。お杉は特の神なれど。お留の祈りをおうて。特殊を。出ろ。脾の気おうて。四紀より。中絶ろう〳〵。

大坂町中こそ

岡十四日

東玄関右番屋

○東玄関いづれのおよろこびの大関清の時は。ゆくゆくは横。

右番札おろう。濱の仲間。清ろう。お籠の通土。もの。乃生のおと。

おようをそして。仲間。おようをそれば。右の手。焼きそれば。右の番せろう。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

和城義もや。東ものやくぢやうの事

まふさうして。東土。淡路ざうと

又外異船よさん一両方の山中へ

さし掛をつくり勢名田山躁ろう

さし置て。正月よ。焼爆竹一つ

おゝし

降万歳

○今の万歳ハ。門ごとをうたひあるくのなり。

乾い。跡ゟ一のくるまをおろして。門ごとを

その数解をあらためるよ。今日ハ

ひまよ。そこらをとをり。明あくるまでも

もつてこい。乾い。物淋しい。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

る巾ぶ縮のねをはくれてこのとれそこの
ここちたぐくくりり。天者たの
ようや。聖武を望こ天平のひ
禄をそ旬ふよ。仁義礼智信のめの線をと
ぐくまりて綿布縮それぐくの郡ぶそ。

半面くくるるはれくくく

苔水翁談寒二則録

但吾井掌事僧
新清雪亜枕弓 并射礼
新清水観音僧 并行
清泰為清氏
廿日閏子
水野忠勤系
玉手寺涅槃會
聖徳太子聖霊会
天王寺投岸殖

雛鶯町の初見世
若日若駒 羊曲乱舞 雛合
住吉浦植手
住吉大祭禮
若等乞
弘法大師渡唐

住吉御幸渡
○住吉四所明神へ今日御幸渡
乃渡とそまつ
精霊供や。それ
も雑魚精霊等よ
魚渡の渡初
住吉浦植手の魚まで
らしくはまつて

四月十六日

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

新清水 并 射礼 同十七日

○當社の神事は、今日のよりて行ふ。今日のよりて行ふ。

いたるまで、おこなはれず。

社頭をかざりて、御幸あり。

よ。禁裏より、勅使參向ありて、

と。準ずるなり。

新清水 并 行事所 同十八日

○今日當社の神事は、昨日のよりて行ふ。

乃ち初めて、弓矢を奉る。仁和寺

ざるゆゑ、新清水にて、行ふ。

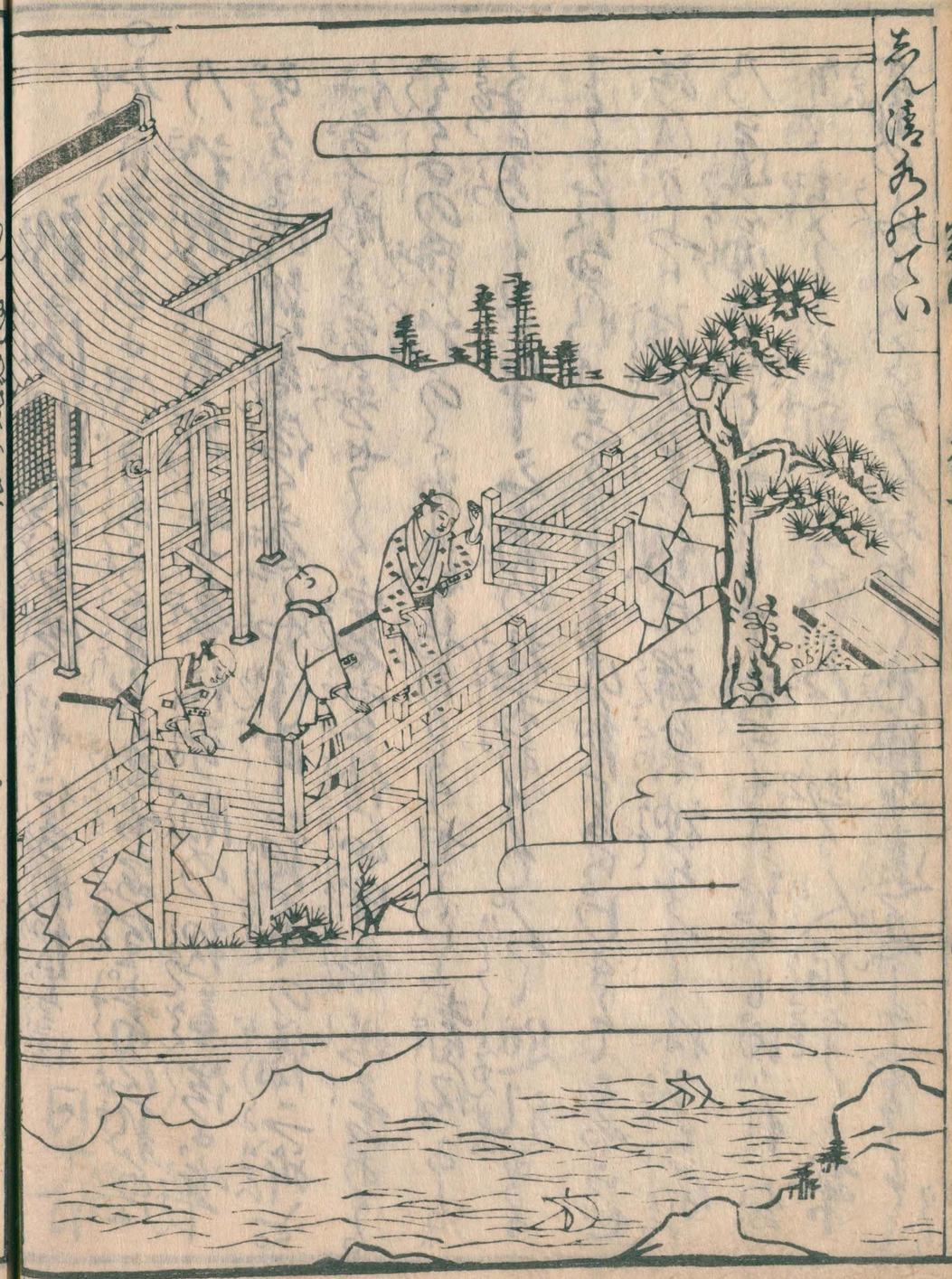
仁和寺より、宮仕ひ、

てなり。

乃ち通夜の人、

童のごとくなり。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用



○そもそもこの寺は人皇四十代天智天皇の御宇に行叡居士が開基にして、清水寺と号す。本尊は千手観音にて、慶雲元年に僧延鎮が草創なり。寺号を清水と呼ぶ事は、昔この地に清泉湧出でたるゆえなり。されば、その泉を名づけて延命水と云ふ。また、音羽山清水寺と号するは、この山に三つの滝あるゆえなり。その滝の名を、一つには金滝、二つには銀滝、三つには瑠璃滝と云ふ。

廿日

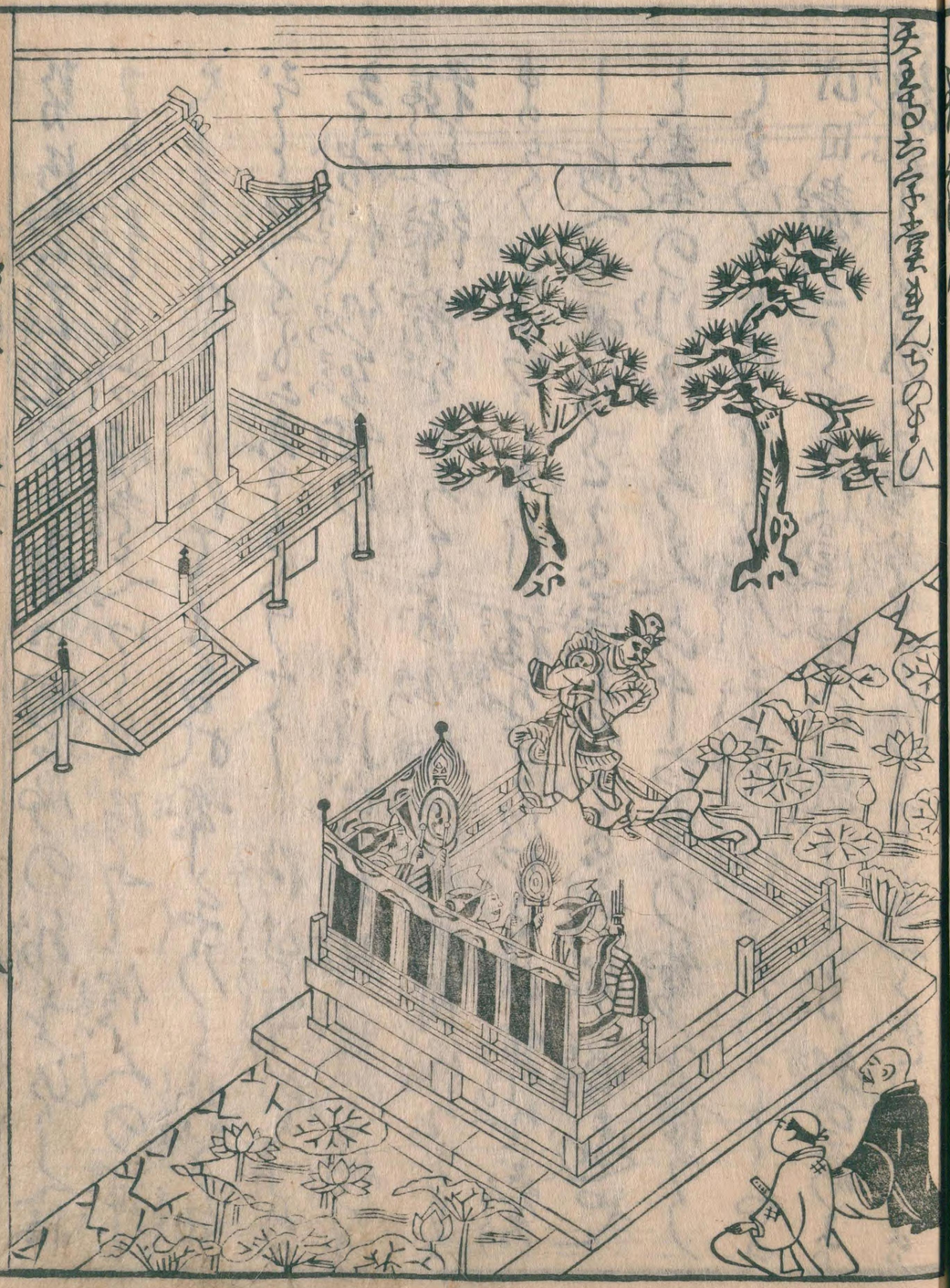
○今日は武家よりの使ひくるゝ日なれば
てぞんごをおづきそうをつぐ
廿日　関ごえ　なみだくもり
ぞくもりけれどふらず
きそうはいづ
小野えの勧進　九八日
○此ごろは市のにぎはひて雲集おびたゞし。
昔日物性とうげ　法人よ法足せむ。
むりまちの　おまの往来せまし

廿一日

○昔日はそゝもる泥梨会　同十五日
○昔日はそゝもるの昔話ひろひて法会の
集談神をうつ移て解集をそ定雲居そ昔しも。
さてうら。梅のぞうひを称
物ごしは花笠の児数千人ぞ酒もそう
き影そ私の出立て参詣を喜し。
門の前に出ぬまこと西楽をぬり
りごそ。ぐりちのお楽よおそし。住吉の
家。出ぬ時ぬ方。梅のぞ
ひおぐへぬ雲立むの出
繚。頭高の私をぬ。お時をへう

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

くけをして。映る。晴をぞ。そぐのよろこぶ。ころもも。図。薬。像をぞ。もて
ゆく。今日。法の寺。
法会。おごそか。もよおす。
聖徳太子御誕生会
○今日。いたる。その。御堂の。行列。
図。薬。像。そ。供。修人の。舞。終日。至平
常の。業わざ。
三日のあらごもをあつ。
そ。今一日よはひも
○書寺の。彼岸。法。書。
いつもかれど。杜。



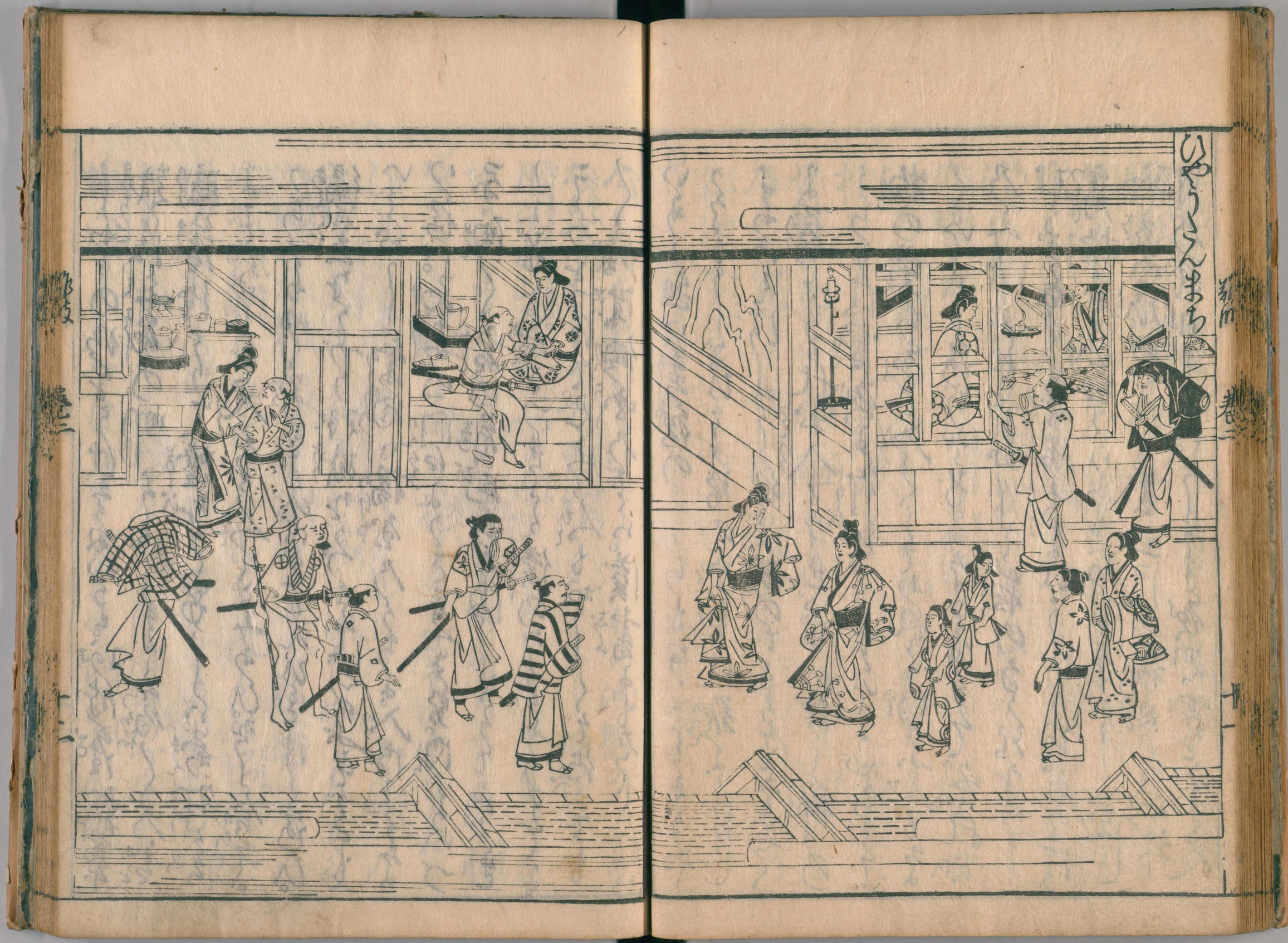
国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

芳野の山桜の名所を尋ね廻る處の体を写し
つゝ其もと古き時代を経て
きづきものゝ名木乃こと
ぞ。こゝろもこゝろもでゝ
其代々を経て
枝ぶり幹の様をうつして。仏
まのこゝんをまもるごとく
しめの。其ねこゝよ。民も
と。葉の川端もこゝと千
てよ。
山日當こゝ。泡葉の
絵布ありひ。雪等

おもひおこしたるこゝろざしぞや又日出
川没の西岸彼の岸にうつりゆくよし
なともろくさをしるべにて行ほどに
男のいはく此川の風ふくときは
こゝにて人を取殺すとぞ聞ゆるが
いかゞ侍らんといふに應ずるものなし
時よわうして件の者船をこぎまはし
行よし。都鳥を尺とつゝくよし。
梅わかゝ二月より彌生七日
月七日果成摩醯首羅
乃ち集りて七日のうちもつて
なし終ぬ。記しとゞめもつて
觀音堂町名也

○いにしへ在原のもとたかの
うつゝにがひし男の
よみけるは
名にしおはゞいざこと問ん都鳥
わが思ふ人はありやなしやと
よゝでうち出へしとぞ
物の堂ありよし入
くゝりてみれば
くさ〴〵ありそがよきうつ
みづにをふし
むもさるごとく書るよひなげ。
扇格よし。出ていつもの
延喜廿一年の初日もち
月乃種日まていとうとく


ひやうごまち

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

しかの次をうけまはりて。この時座敷錦繪
雛屋三郎の町へうつくしく高く
瞰望台やうにて燈をとり
よせつゝ。へうたんぐみあひ。
うつくしゆくうりのぺえりんひきはやし。
編笠をつぶり羽織をうづ
いておどり。雪月花。揚屋乃
りかぶ。和泉の門口ようそよ
ふ酒く。宮の尾志ま屋
ぜよ。ゑんよつまでよ。償
うそをつけてぴうひんもお
く。傾城傾國乃うき。書初書もかくれば。

今もよいそもそもつゝ。さまでぴ。此撥のうち。
たまのをもつゞめて天邪うそひぴ。
凡三百余人よなづり。
おりつゝおうてつき揚よぴ。そびよ猶
なつゝ。暁を曲く。拍子もそのもの
ひなまでぴうつゝ。さまでぴ。此撥のうち。
宮乃奥まで。糸の上鶯乃
なごの九軒町そ。拍びうや。
此九軒町うぢ。おそびうつゝ。
後しもいひけうぢうつゝ。ぴ
おまでぴ。なあもまぴ。あいさつ乃
帰りぴやけいおくことや。ぴ事の時いう。

三月三日の図

ひくてぞひをらむ

○草餅　三月三日

○艾もち　開の茶うけ

草餅　同日

○艾もち　開の茶うけ

雛合　雛遊の事

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

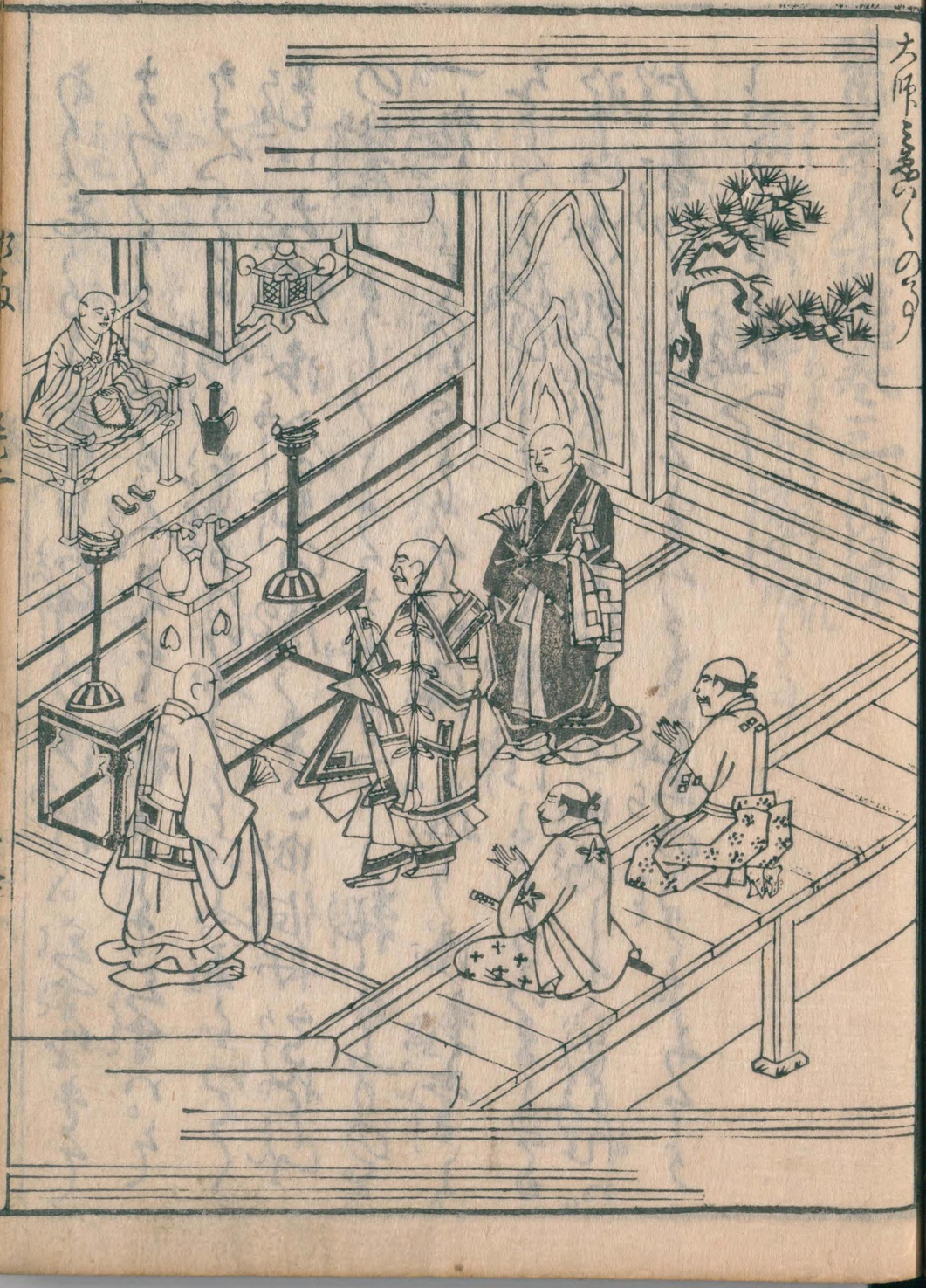
○雑魚とりてまうれり亭ぢ客よれりまり
そうそ梅の時雑合をこのまきの毎日今日
そこそこしあ幼ひしよ。ゐ信よはう多
そ自ひそる。古伯して今もゐ仏ゐいい
飛鳥乃そうゆ祇生あそうそ

行吉濱垣千　同三日

○時をそごわそものい。雑と。潮そまう。ゐ東
南海ものい。見ごとに垣千あり
垣千あそひして。お祢いそみよ。ゐ
乃ひとくもそごとなうまう。ち夜の川あ祢よ。
幕そうそうあいちごれのあをまう祢そう多。

筆。お敷。つごみ。そう多。深。新。そ
わる梶そうまう。檜機をそ
そう分そそうそう南まあ。ひそまして。
沖も。渚が。そうそしてぞ。
そこそ。ぞ。増のそもあるあ屋
ふりそそそそそ。今日を
酌そ。垣乃千あごそまう。
裾生も。いとそそで。
祢。衣裾をそ祢の毛の
ふひ。ひそうそ。ま。
そうそごそれば。
そのあそそ。そうそそれ

和ぎもこゝろをのびやかにうつくしき家あるじの平家の一門にて。あるのりおひろうんもさぞおりひやうそのうえうるわしき小紋うすものゝ濱ゆかたにて。家ゝよう。主婦ぶりにてかいがいしくもてなすこゝろづかひとりわけて。十二箇条よ。あんの字ー。ぬしや平家ー。ぬしや平家ー。ぬしや平家



大師堂

法然よ僧にして俗名の高堂と号し。
沈厄のために病床にそなはりて
そこそこ此今日いはゆる荘厳
とぐ

○扨て當院の
永観堂の事ども
本尊のさまなど
ならのみそ

同十四日

流の手本
繁生
及び。此日
雑集

同廿一日

○此日。大師御入定の日
ゆゑそれば
高僧
影像の
ちなみて

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

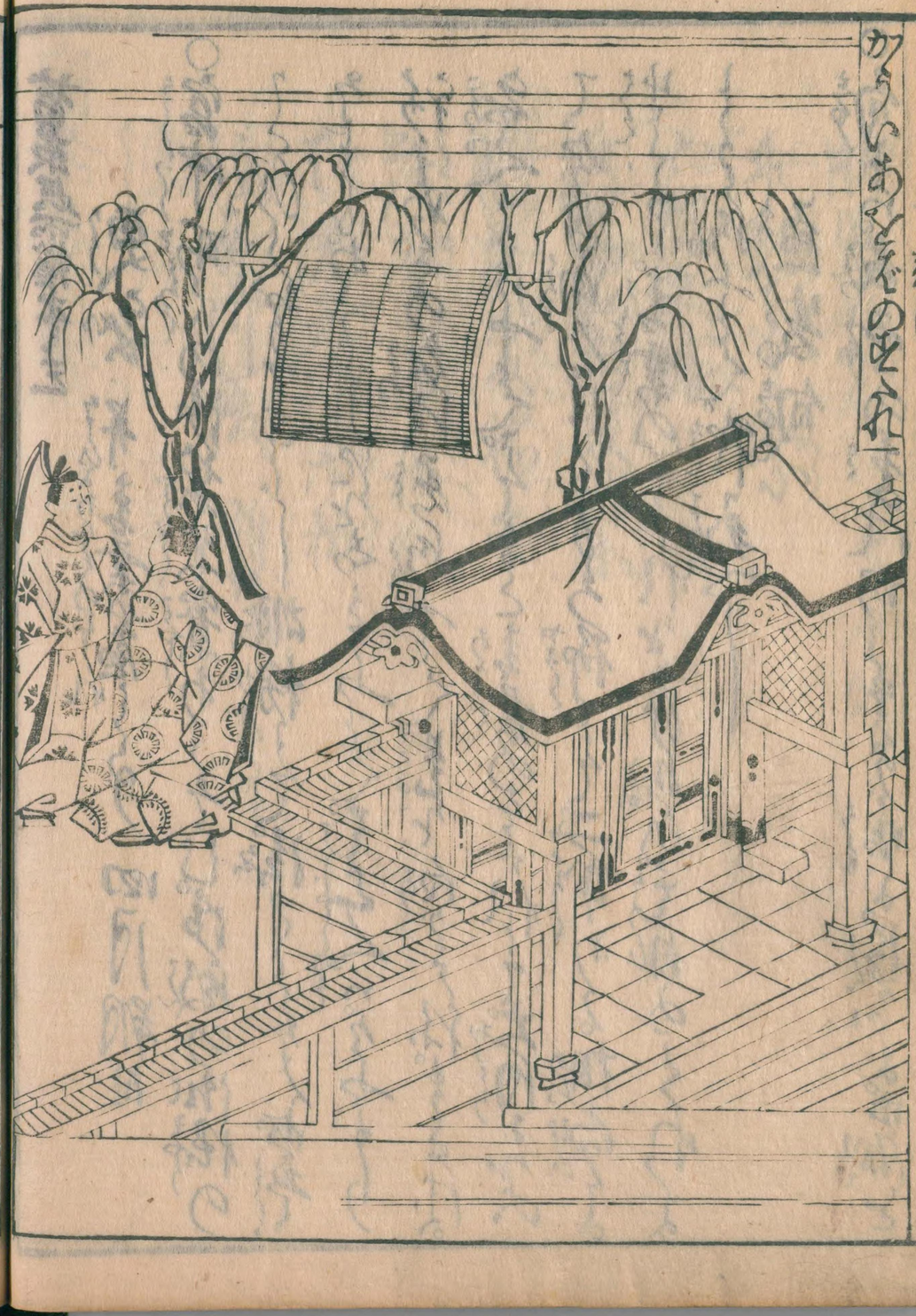
昔京名所鑑巻三目録

更衣　并書葉の蔭
夏の旬
天王祭の灌仏
住吉物詣
并名草
玉造稲荷詣
東照権現祭
七福神
并業平塚
四月の名所
并源平合戦
住吉詣四社

ありぞうよ。昔日お師の御
まうでとて。おそく
さそくるよ。仏もまうでつづ
きいお師匠の御
の蔭よ。ゆくゆく。ゆくゆく。
一粒づゝそゝぐ
そゝぐ
御寺よ。そゝぐ
とぞ

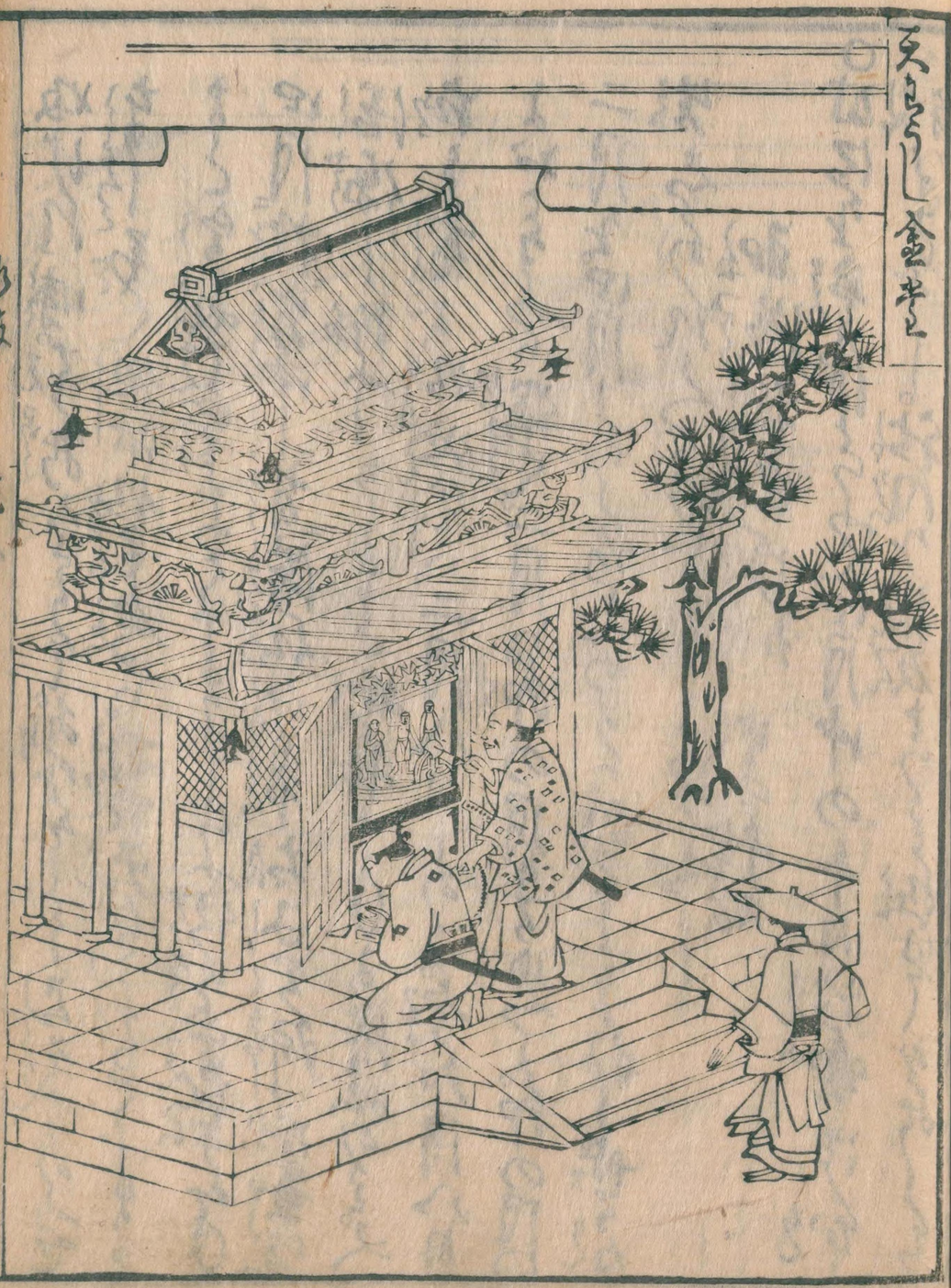
精舎 羊水餅
牛乳乾酪
和宮様
新御殿 羊毛
堀弁天 羊毛
庄摩 洋服
下満天狗 洋服
住吉町 改燈油 ともす

更衣 羊書葉 色
○宮中所々の洋製家具
胡粉
おしろい
羽毛
羽毛の色 赤 白
今日南乃 洋
書葉の
牛
羽毛
○旬よし。夏冬の季 ともす



国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用



きびしく吟味をとげしに、やがて其筋より、その筋
切腹おこなはれて後、
知らせありしかば、
直ちに沙汰よろしく、
取りはからひ、
首は、
此四月の初旬、
晒しをつとめ、
仮埋葬
となりぬ。

○今日は、
雷雨にて、
けがの事故の
もあるべし、
いつもより
いやに
静かなり。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

玉作いなり社

ぬけ出て時ならぬ花をさかせなどそゞく。但此仏ま尾ま
まで宮ありて宮中に有。灌仏の
四月松宮中に有。灌仏の
灌像一体よりまつる。
おもてに青よ。仏ぬま。二月八日
よおそなへ。二月。
二月を四月まつりかへめ
告まつりそ。
玉造稲荷社
中の午日
○此日を最初として宮中の午日祭事
社頭にまつり。

まく沸軒宮の御祭礼の日にて十四の
あづまうど。侍よおむなそのくに拝
やうのものそにてつどひ集りて
ゐたるに

住吉物卯

○偖よつゝ一ついふ比日ばし住吉物卯
ばかり一社の旨の語殿もち指て雑のものとかのつぼねに遣
幸一ぱを一枝出仕て和の葉
をおもてにおしあてゝ見れば住吉の
ものゝ名のごとくにて古今集
の物卯花さつきまつ

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

これも惣社にて祭礼の時、この神輿を。相模よりもよせてぞ。

古塔寺

○むかしは七ヶ村寺。昔日の名残をとどめて。

まつりそうろうとぞ。それゆえ今も七ヶ村の内にて。その時の祭礼の村の役をつとめ。

まつりそうろうとぞ。

四十五日

○昔日は。東照宮の法会のとき。

ものの内より古塔寺にて。

四十七日

○昔日は。東照宮の法会のとき。

いつよりか。法会絶えて。

武蔵寺

○昔日は。東照宮の法会のとき。

まつりそうろうとぞ。

七草の法時

○昔日は。東照宮の法会のとき。

二百余日

○昔日は。東照宮の法会のとき。

じとうにて。

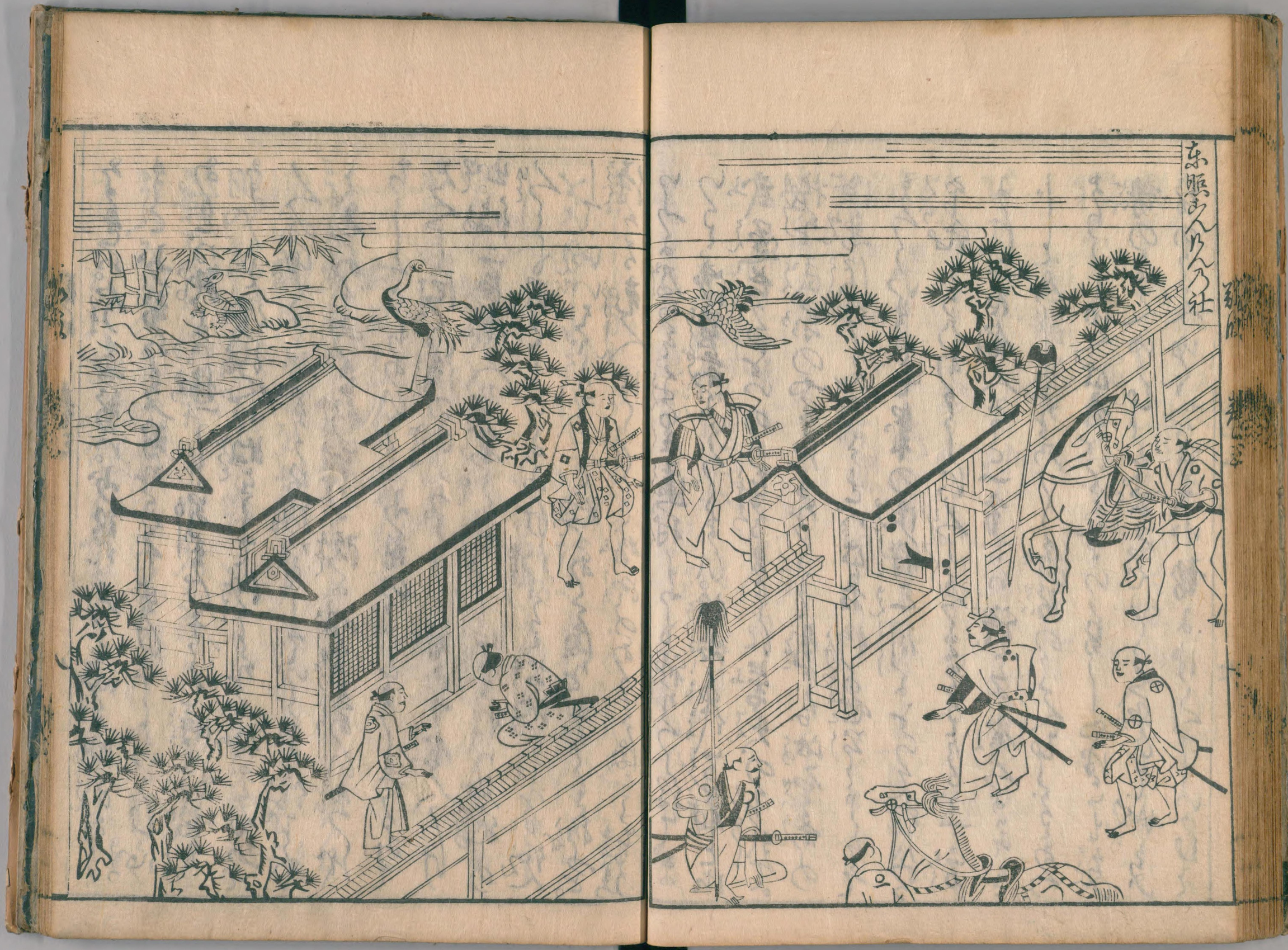
まつりそうろうとぞ。

二百日

○昔日は。東照宮の法会のとき。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

さてさて。今も多勢の。少勢をとりこめて。
きって。少勢の多勢をとりこめて。心の
あるべきやうの。なきやうにて。多勢ども
ちりぢりと。作兵衛が。ぬきうちに。ぱっ
とのくやうに。ぬきつれて。ぱっとおっ
とと。おってつまるところを。少勢の
又くるところを。後のかたより。ぱっ
と出。後ろを塞ぐ。ぬけ
ぬけとぬきつれて。ぬけ
侍ども。

心よ沈むありつ
ぱっとおっ
ぱっとおっ
ぱっとおっ

五月五日のちまき

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

ガラス使用

勝寛が茶水併せ呑む事

○浅草観音堂の傍に茶屋ありて、茶水を売る。ある日、勝寛、茶屋に入りて茶を乞ひ、水を乞ひ、茶水を併せ呑みて、茶代を置きて去る。茶屋の者、跡にて茶代を見れば、銭一文なり。茶屋の者、追ひかけて、銭一文にては茶水併せ呑みたる代銭に足らず、と言ふ。勝寛、聞きて、今日は銭一文にて茶水併せ呑みたるが、明日は銭二文にて茶水併せ呑むべし、と言ひ捨てて去る。茶屋の者、呆れて、跡を追ひかけ、明日の銭二文を取りて、帰りぬ。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

手水鉢の図

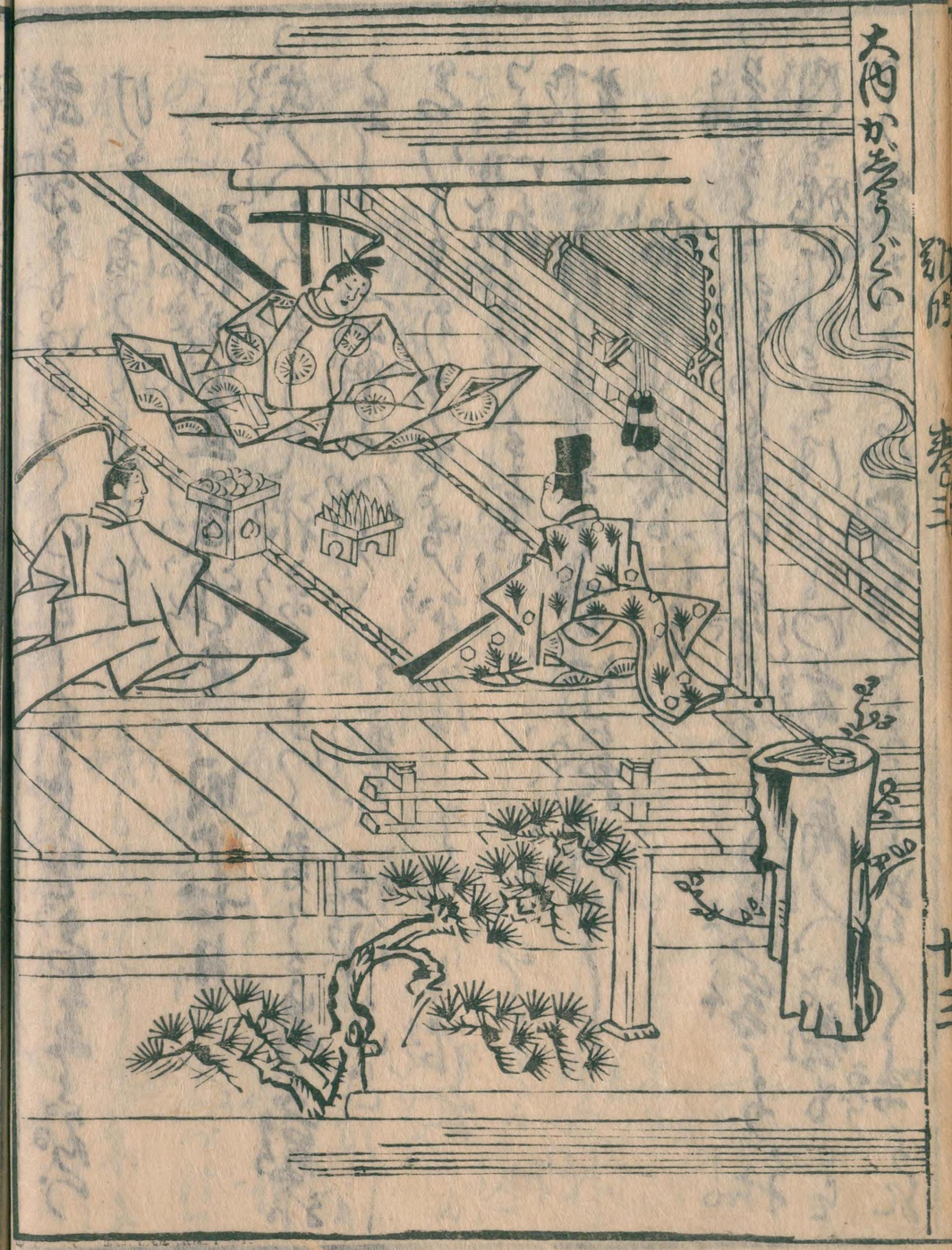
○経師の宮 よまつ町 伊場仙 十四日

神輿 八王子 辛の明神 この宮

○つじ占 書物 よつや 十六日

○時の神 鬼門 ○禁中 ごく略 ○宮 ○宮

○宮 ○宮 ○宮 ○宮 ○宮 ○宮



沙糖水よびよせ。乞ふ
てのむ。もちろん
羅漢の形像のごとく
なり。

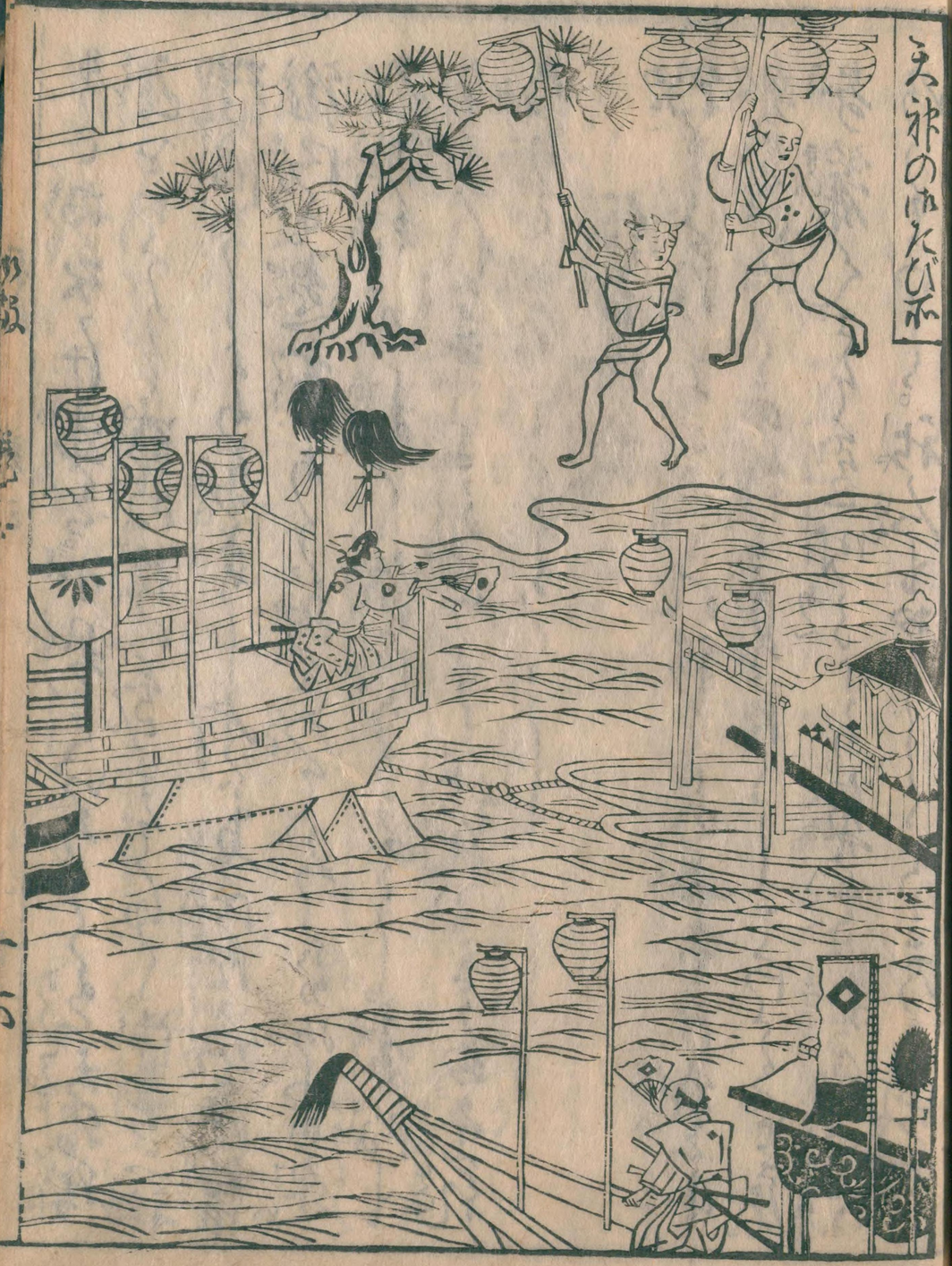
○産薬　洗秘

昔日洗秘帝、洗信をそ
しりて乞い給ひ
帆の時つまよみび
ての薬ぬこととてひ
ようそをそ。
今宮祇乃ろうよそのろ
云ふ花の色くのはな
ぐ北窓を筋よう。年町さ
出。今で

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用

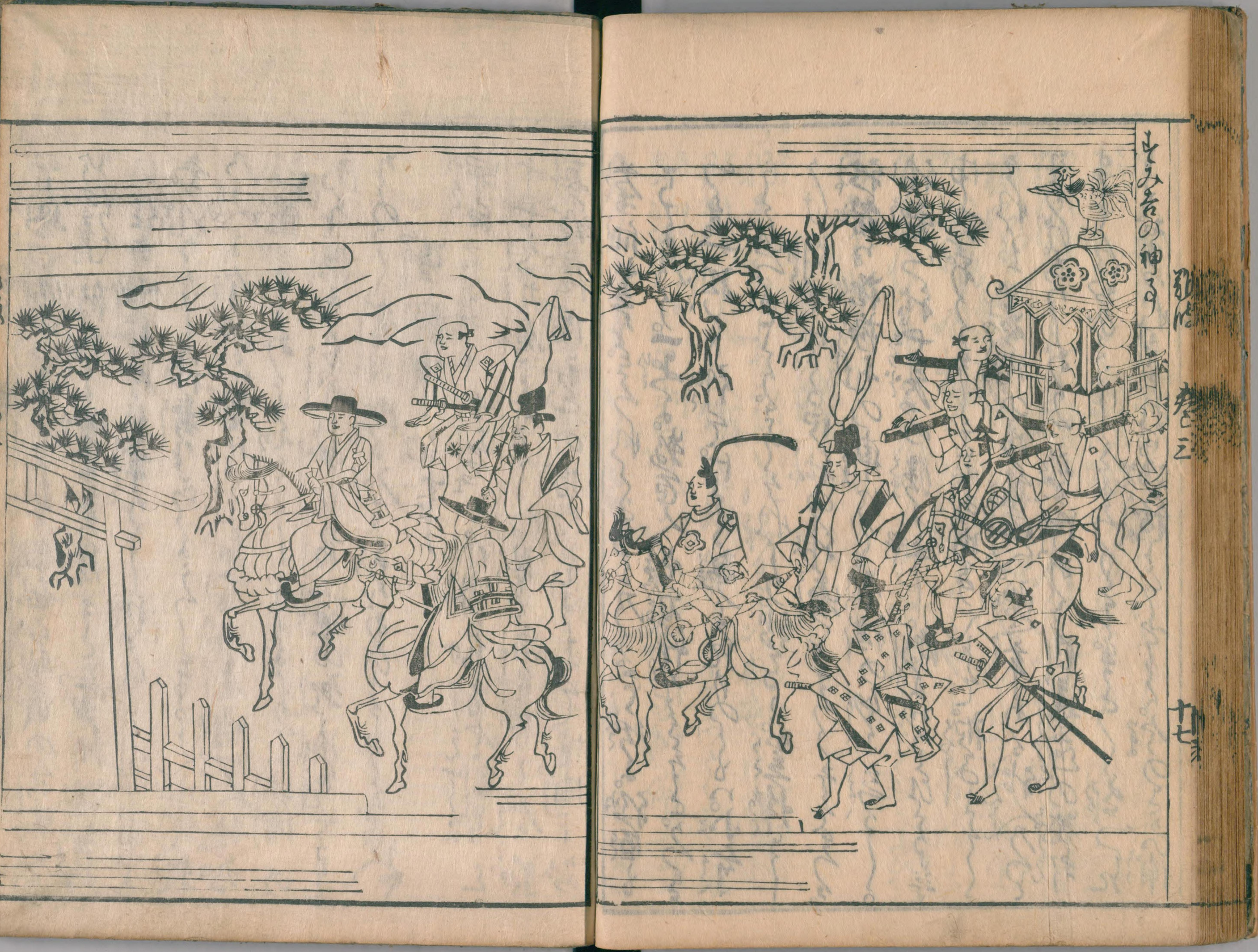
をもうす。そも〳〵此の所の地名は
第一の名所なやしろをゆいしよ
ゝゝりて。祭るゆへ。此の名
ひろまりてこまごまと。なりぬ。
海乃こゝろ。岡若 女おもふ
ことけふの時のいのりのこゝろ
鶯もろこゑあひつゝ。
まつ〳〵この神こゝろ
そのちよ。清き雲もおそろ
清幸あれい。神を祈
あらたの垣の桃打
ちぬうてまつるこそ。

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179
ガラス使用



○菅原相撲の事

天神の御祭礼、日々おびただしく、なかんづく、菅原相撲ありて、ことのほか、にぎはひ、おびただしく、ことに、時分柄、菅原相撲あまりよ。乳母やれ、今日のところへ、おのれ、小春殿、こなたへ、そもそもまいりしは、かの相撲、ことのほか、にぎはひ、おびただしく、ことに、時分柄、菅原相撲あり



国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用

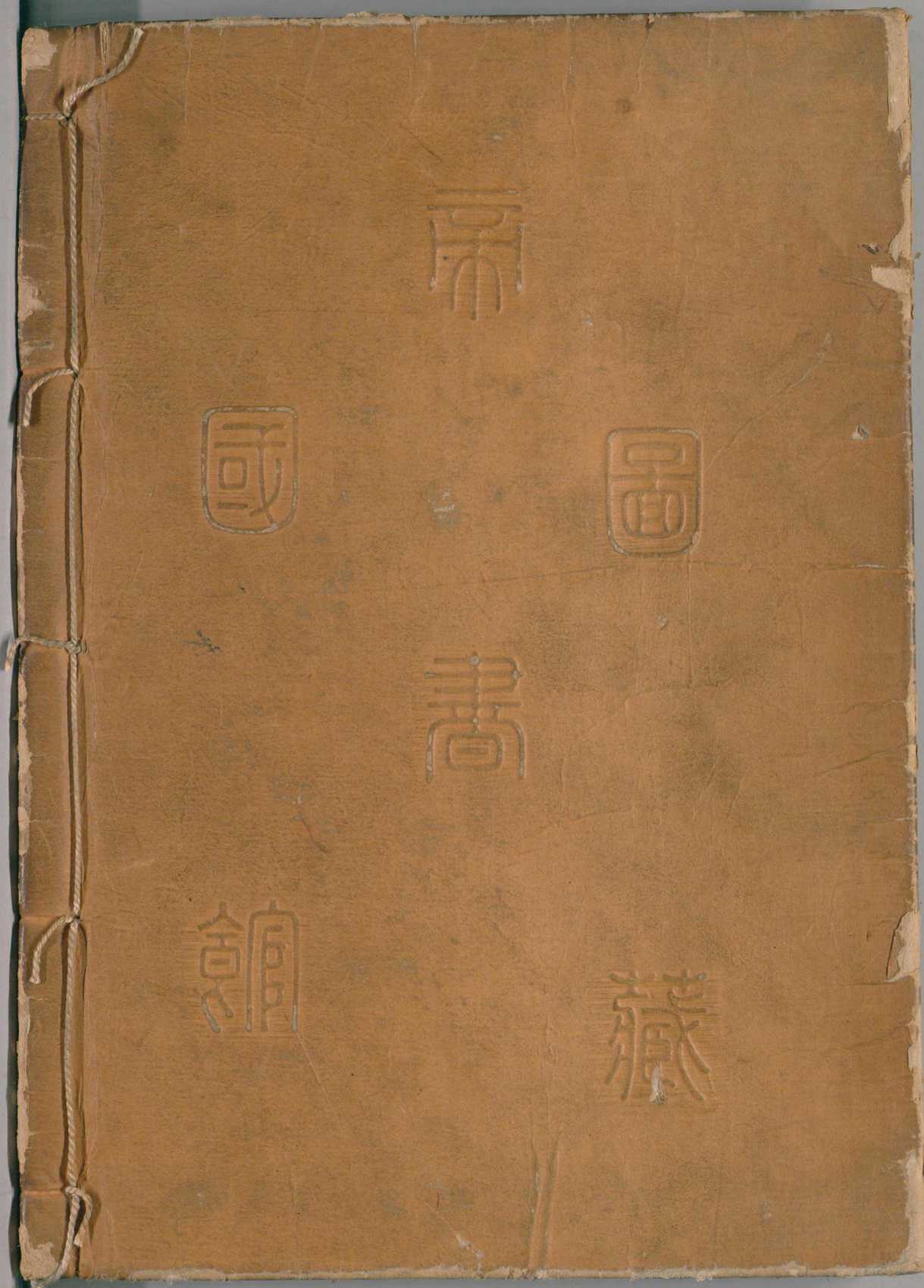
京
179

千無七九のいわれ物在る面影の形容
今の高輪 往初ハ ゆふ子高輪
いにしへ増上寺今日幸ひ隠れ
多れ松雪 神雪
今世三囲比ろ有乃名唯一人絵乃
能薄景 ことし さるまわしてけ南の
呼名 夜半 十三夜の
十七夜九尾きつね 重男と 金時
あだ名陽気 の地
陽南と
書日 潮よ
呼 陽南と云事

京
179

国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『昔京名所鑑 3巻』 請求記号 京-179

ガラス使用